

タルディーボの栽培技術(第一報) 播種期と軟白処理時期

澤里昭寿・荒川 梢・佐々木丈夫*・山村真弓

(宮城県農業・園芸総合研究所・*元宮城県農業・園芸総合研究所)

Cultivation Techniques for the Red Chicory 'Tardivo' (the first report)

Date of seeding and blanching treatment

Akitoshi SAWASATO, Kozue ARAKAWA, Takeo SASAKI* and Mayumi YAMAMURA

(Miyagi Prefectural Institute of Agriculture and Horticulture, *former Miyagi Prefectural Institute of Agriculture and Horticulture)

1 はじめに

タルディーボはキク科キクニガナ属、レッドチコリー品種群のうちの細葉・不結球タイプの系統である。タルディーボは株養成と軟白処理の2段階の過程を経て生産され、赤と白の鮮やかな色彩はレッドチコリーの中でも評価が高く、イタリアでは冬の高級野菜として扱われるが、日本国内でまとまった生産はほとんど行われていない。

本研究では、宮城県内におけるタルディーボの播種時期と軟白処理時期が生産に及ぼす影響について検討した。

2 試験方法

(1) 試験区の構成

以下の播種期と軟白処理期を組み合わせた。

1) 播種期

- ①2007年4月17日、②5月16日、③6月18日、④7月17日

2) 軟白処理期間

- ①11月軟白区：2007年11月5日～11月26日
- ②12月軟白区：12月7日～12月28日
- ③1月軟白区：2008年1月17日～2月7日
- ④2月軟白区：2月12日～3月4日

(2) 栽植密度

- ①4月播種区：ベッド幅80cm、通路50cm、株間30cm、条間30cm、2条植え、513株/a
- ②5～7月播種区：ベッド幅80cm、通路50cm、株間40cm、条間20cm、3条植え、578株/a

(3) 施肥量

窒素：リン酸：加里＝1.5：1.5：1.5(kg/a)

(4) 軟白方法

露地圃場で養成した株は、掘り上げた日に軟白処理を開始した。掘り上げ後に根部を水洗し、恒温槽内(13℃・暗黒条件)でポリ製の大型コンテナに水を張り根部のみ浸漬し、21日間処理した(図1)。

(5) 調査項目：

株養成時の抽だい率、軟白処理前株重、軟白処理後の分げつ率、調製重、着色程度

3 試験結果及び考察

(1) 株養成時の抽だい率

株養成圃場での抽だい率は、4月播種は10.4%、5月播種は3.7%、6月播種、7月播種ではみられなかった(表1)。

(2) 軟白処理後の分げつ率

すべての軟白処理区において、4月播種、5月播種では分げつ率が60～100%と高く、6月播種では0～44%、7月播種では発生しなかった。分げつすると軟白処理後の調製重は小さくなった(表2)。分げつが発生すると葉身が変形し、商品価値が低下した(図2)。

(3) 軟白処理後の着色程度

タルディーボの着色程度は、赤色が濃く赤白の濃淡が鮮明なほど高く評価される。11月軟白区では、どの播種区の株も軟白処理後の葉身の赤色の着色が悪かった。12月以降の軟白処理区では播種期が遅くなるほど赤色の着色は良かった(表2)。観察によれば、軟白処理開始時の葉身の赤色が少ないと軟白処理後の着色が悪くなる傾向がみられた。

(4) 品質評価

12月、1月、2月軟白区において、1個あたりの調製重が大きく着色程度が優れていたのは、7月播種区であった。6月播種区は1月以降の軟白処理区では平均調製重84.8g、71.0gであったが、分げつ率が60%、44%であった(表2)。

以上より、宮城県におけるタルディーボ生産は、7月に播種し翌年1月以降に軟白処理を開始する作型が適すると考えられた。一方、年末年始の外食需要期の出荷を考慮した場合、調製重60g程度ではあるが、7月播種の株を12月中に軟白処理する方法も有効と考察された。

4 まとめ

イタリアの冬野菜タルディーボ(キク科キクニガナ属)は、株養成と軟白処理の過程を経て生産される。宮城県内における播種時期と軟白処理時期が生産に及ぼす影響を検討したところ、4、5月播種栽培は株養成中に抽だい株が発生し、4、5、6月播種栽培では分げつが発生した。また、11月軟白処理では着色程度が悪かった。12、1、2月の軟白処理では7月播種が調製重が重く、最も着色品質に優れた。



図1 軟白処理の様子(左)と調製後の株(右)

表2 軟白処理前後の生育状況

軟白処理前				軟白処理後			
軟白処理期	播種日	堀上日	平均株重 (g)	軟白処理 終了日	分げつ率 (%)	平均調製重 ^a (g)	着色程度 ^b
11月処理	4月17日		2,217		80	33.8	—
	5月16日	2007年	1,371	2007年	60	38.6	—
	6月18日	11月5日	863	11月26日	40	40.0	—～+
	7月17日		865		0	78.0	—
12月処理	4月17日		1,060		100	29.6	++
	5月16日	12月7日	990	12月28日	80	35.0	++
	6月18日		446		0	50.0	++
	7月17日		866		0	60.0	++
1月処理	4月17日		1,225		100	48.3	++
	5月16日	2008年	1,059	2008年	60	73.1	++
	6月18日	1月17日	1,075	2月7日	60	84.8	+～++
	7月17日		877		0	160.0	++
2月処理	4月17日		550		86	31.3	+～++
	5月16日	2月12日	1,056	3月4日	80	55.0	+～++
	6月18日		655		44	71.0	+～++
	7月17日		842		0	145.0	++

a) 分げつ毎に調査した平均値

b) 葉の赤色の着色程度：++濃い、+中程度、—薄い (商品価値は色の濃いものが高い。)

表1 播種日と抽だい率

播種日	抽だい率(%)
4月17日	10.4
5月16日	3.7
6月18日	0
7月17日	0

注：調査時期は2007年10月中旬



図2 軟白処理後のタルディーボ分げつ株

(左：4月播種・12月軟白処理。1株から3つの分げつが発生し、いずれも葉身が変形している)

(右：6月播種・12月軟白処理、分げつのない3株)